

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

佐賀県唐津市

○学校名

唐津市立七山小中学校

○学校のURL

<http://www3.saga-ed.jp/school/edq12751/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各1学級、【特別支援学級】2学級、【合計】11学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】189人（平成25年11月28日現在）
（内訳：1年生18人、2年生21人、3年生20人、4年生16人、5年生29人、
6年生25人、7年生（中学1年生）27人、8年生（中学2年生）13人、
9年生（中学3年生）20人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「ふるさとを愛し、夢や志を育む子どもの育成」

【人権教育に関する目標】

「差別や偏見に気づき（見抜き）、差別を無くす実践力を育てる。」

「人間の尊さを理解し、助け合い、お互いに磨き合う仲間づくりに努める子どもを育てる。」

「共に励ましあい、助け合い、お互いに磨き合う仲間づくりに努める子どもを育てる。」

○人権教育にかかる取組の全体概要

H24・25年度、文部科学省委託事業・佐賀県教育委員会指定を受け「人権尊重の視点に立った学校づくり」の在り方について研究を進めた。

【研究主題】

「学び合い」で心をつなぐ授業の在り方の研究

—人権感覚をみがき、認め合える子供の育成—

【研究の目標】

「人権尊重の視点に立った学校づくり」を進めるために、以下の三つの要素を研究の柱として研究の目標を設定した。

- (1) 授業の実際の中で、「学びの共同体」の考え方を取り入れ、学年の発達段階や課題の内容に応じた学び合い学習の方法を明らかにし、一人一人を大切にしたい授業づくりを行う。また、総合的な学習の時間や社会科、道徳に限らず教育活動全体を通して人権についての知識理解を深め、実践的態度を培う授業づくりを行う。

【人権が尊重される学習活動づくり】

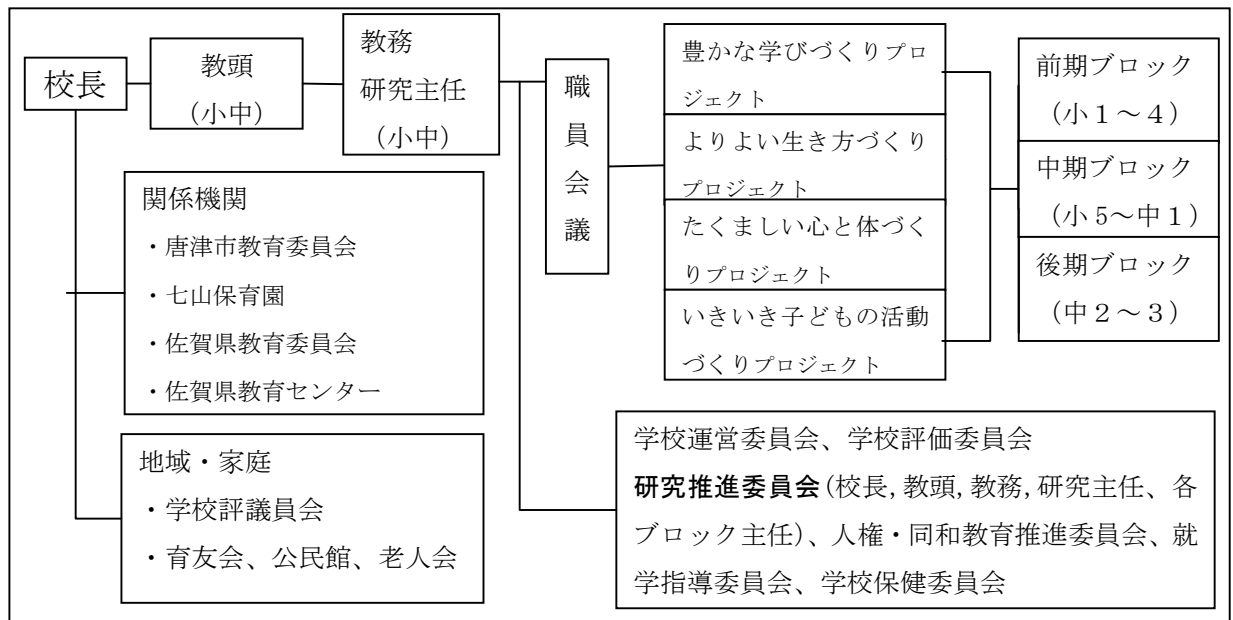
- (2) 人権教育の視点に立った仲間づくりの在り方を探り、よりよい人間関係をつくるために学級経営や生徒指導の在り方を深める。

【人権が尊重される人間関係づくり】

- (3) 様々な立場や生活背景のある子供を理解し、一人一人の権利が尊重された、安心・安全な学習環境をつくる。

【人権が尊重される学習環境づくり】

【研究組織】



3. 特色ある実践事例の内容

【研究の実際】

1. 学びづくりプロジェクト部の実践

(1) 温かい学級づくりについての研究

① 「学び合い」学習

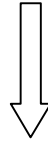
本校で取り組んでいる「学び合い」学習は、「一人も置いてきぼりにしない」という考え方の学習である。その考え方が、人権教育に通じ、相手の人権を大切にしたい学級づくりにつながっていると考えている。ペアやグループ学習等を計画的に取り入れ、また、授業の中では教師自身の声のトーンを落として、しっとりとしたやわらかい雰囲気をつくることを心がけ、子供の表情やつぶやきに注意を向けながら、「学び合い」学習を深めた。

ペアやグループでの学び合いの仕方（前期ブロック）



ペア学習の様子

わからない
おしえて
しつもんする
かんがえをきく
じぶんのかんがえをもつ



「学び合いの仕方」カード



グループ学習の様子

グループでの学び合いの仕方(中期ブロック)

七山小中学校

学びの内容	ステップ	課題	ステップ	学びの内容
分からない	1	一人で学ぶ	1	分かる
「どう思う?」「説明して」「考えを教えて」と言う	2	グループで学び合う	2	「教えて」にこたえる
友達の説明を聞く	3		3	友達に伝える説明する
友達の考えが分かる 分からなかったことが分かる	4		4	友達が分かるまで伝える
自分の考えを持つ 自分でできるようになる	5		5	いろいろな方法で教える

全体へ

グループでの学び合いの仕方(後期ブロック)

七山小中学校

学びの内容	ステップ	課題	ステップ	学びの内容
分からない	1	一人で学ぶ	1	分かる
「どう思う?」「あなたの考えを教えて」と友達に言う	2	グループで学び合う	2	友達の分からないに気付く 友達の「教えて」にこたえる
友達の説明を聞く	3		3	友達に分かったことを伝える 説明する
友達の考えが分かる 分からなかったことが分かる	4		4	友達が分かるまで何度も伝える いろいろな方法で教える
自分の考えを持つことができる 自分でできるようになる	5		5	友達が分からないところを教える 必要などころだけ説明する

全体へ

さらに、グループ学習の中の人権の視点指導系統表により確実に人権が尊重される学習活動を目指した。以下は、前期の系統表である。

		前期ブロック		
段階	学習形態	1・2年(ペア学習)	3・4年(グループ学習)	
やわらかな人間関係づくり	1学期	学級づくり	クラスや学校生活に慣れるために話し合わせる。子供のつぶやきを聴く。	楽しい学級、学校づくりのために話し合わせる。子供のつぶやきを聴く。
		机の配置	ペア学習でお隣の友達と机をつけて、向かい合って話をさせる。	4つの机をしっかりとつけ、中心部分に「学びの広場」を作って話し合わせる。
		聴く	子供たちが聴き合うことができるように、教師が子供の顔や目を見てしっかりと話を聴く。	子供たちが聴き合うことができるように、教師が子供の顔や目を見てしっかりと話を聴く。
		少人数	「上手ね」「ありがとう」と言える関係づくりを行う。机をつけて、ペア学習をさせる。	わからないときは、「わからない」と言えるようにする。机をしっかりとつけてグループ学習をさせる。
		ペア学習 グループ学習	ペア学習の中で、「わからない」「教えて」と言えるようにする。	グループで仲良く学習し、「わからない」「教えて」と言えるようにする。
		支え合う人間関係づくり	2学期	ペア学習 グループ学習
ペア学習 グループ学習	困り感のある子供に、どこが分からないかを聞き、友達に尋ねさせる。			どこが分からないかをはっきりさせ、周りの友達に依存させる。(半)具体物や絵や図を使って説明させる。
全体学習 つなぐ	全体的話合いで、子供と子供の考えをつなぐ。 言葉かけ…「わかった?」「どう思う?」			全体的話合いで、子供と子供の考えをつなぐ。言葉かけ…「わかった?」「どう思う?」「どういうことだろう?」
全体学習 戻す	難しいときに、他の子供、文章に戻らせる?。 言葉かけ…「今の発言はどういうことかな?」「どの言葉からそう思った?」			行き詰まったときに、他の子供、テキスト、既習事項に戻らせる。 言葉かけ…「今の発言はどういうこと?」「どの言葉からそう思った?」「前はどんなふうに習った?」
共に育ち合う人間関係づくり	3学期	全体学習	考えを出し合い、似ているところや違うところを話し合わせる。	考えを表現し合い、似ているところや違うところを話し合わせる。
		ジャンプのある課題	難しい課題に取り組み、皆で解決させる。	ジャンプのある課題に挑戦させる。
		ペア学習 グループ学習 全体学習	ペアで話合いが進まないとき全体で話し合う。⇨全体学習で行き詰まったとき、もう一度ペア学習に戻って考え合わせる。	グループで話合いが進まないとき、全体で話し合う。⇨全体学習で行き詰まったとき、もう一度グループ学習に戻らせる。

②構成的グループエンカウンター

温かい人間関係をつくるために、そのときの子供たちの様子に合わせて、構成的グループエンカウンターを取り入れた。友達との関係がうまくいかないときや、自分の内面と向き合い、友達との関係を考えてほしいときなどに、それに見合ったエクササイズを行った。また、定期的に来校されているスクールカウンセラーの先生が各学級に入り、担任と相談しながら子供たちに必要なエクササイズを実施した。



(2)「よい聴き手・話し手」についての実践

これまで本校では、日頃の授業の中で、どちらかといえば「話すこと」の指導の方が中心であり、「聴くこと」の指導が十分には行われてこなかった。そこで、聴く態度や方法を明示するなど、聴く力についても子供に具体的に提示し、聴くことの大切さや必要性を感じ、意欲的に聴くことができるような場の工夫などを行った。

①「聞き方・話し方」カードの作成

「聞き方・話し方」カードは、聞くときや話すときに目指すべき動作、表情、視線、態度を具体化したものである。話を聞いているようで聞いていない、誰に向かって話しているのかはつきりしない、言葉が足りなくて考えが伝わらないといった子供の実態を踏まえて、「相手意識を持って、分かりやすい言葉や声で話をする」、「話し手が何を伝えたいのか考えながら聴く」といった点を重視した。

聴き方の「あいうえお」	話し方の「かきくけこ」
あ 相手の目を見て	か 考えをまとめて
い いいところに気づいて	き 聞き手を見ながら
う うなずきながら	く 区切りや発語を工夫して
え 笑顔をわすれず	け 結論をはっきりと
お 終わりまで	こ 声の大きさを考えて

② スピーチの取組

学年ごとにスピーチの年間計画と目当てを決め、人前に立つ前に、事前にスピーチメモを見ながら練習をしている。本番では、なるべくメモも見ないで相手を見て話ができるようにブロックごとに取り組んでいる。これらを学習活動の中で一人一人が意識し、体験することで、子供に「良い聴き手」「よい話し手」になることの大切さと、相手の考えや思いを受け止め、分かりあうことの心地よさを感じ取らせることを目指している。

(3) 人権感覚を育てる授業づくりの実践

①人権教育の視点から取り組む教材

前期ブロック・中期ブロック・後期ブロックの連携を大切にして人権教育に取り組むために共通教材を選定している。人権教育を共通かつ系統立てて取り組んでいくために、最低限の教材の共通化・系列化を図り、研修を通して共通理解できるように取り組んだ。

特に部落問題学習は中期ブロック・後期ブロックで深めていく必要があるが、学習の積み上げがないと、当時の社会的背景や今の社会や自分自身を振り返ることがないまま、上滑りの学習になってしまう可能性がある。この学習を通して、

部落問題だけではなく社会にある様々な差別の問題や不合理について敏感になり、気づく力と自分のあるべき態度を身につけさせたい。そして、さらに充実した授業実践を行うとともに、情報交換を密にし、これからの教材の見直しにも活かしていきたいと考えた。

人権教育共通教材

ブ ロ ッ ク	学 年	「単元名」 教 材 名	内 容
前 期	1	「ともだちだいすき」 ともだちほしいなおおかみくん	友達のことをよく知り、お互いを思いやり、友達と仲良くしていく。
	2	「自分の思いを伝えよう」	相手の気持ちを考えながら、場面に合った言い方で、自分の気持ちを伝える。
	3	「心をつなげて」	自分たちの周りには、いろいろな人がいることを知り、擬似体験をする。
	4	「いじめについて考えよう」	身近な事例を通していじめ問題を自分のこととして考える。
中 期	5	「正しい判断」 丙午の迷信を通して	言い伝え、偏見、うわさなどが差別をうんだり、差別を存続させたりしていることや、世の中の常識の中にも差別が潜んでいる場合があることに気づく。
	6	「差別とたたかう勇気」	誰に対しても差別をすることや偏見を持つことなく公正・公平に接することができる。
	7	「Mさんの半生」 ----- 「自分以下を求める心」	障害者と言われる人々への差別問題について考え、自分の差別心に気づく。 自分を見つめ、これからの生き方を考える。
後 期	8	「自分を見つめる」	親の願いや親以外からの願いについて知り、自分のこれからの生き方を考える。
		「ネットいじめ」	「ネットいじめ」は人権侵害であることを学ばせ、正しい人間関係の在り方について考えさせる。
	9	「統一応募用紙の精神」	就職差別について考えさせる。
「面接」		就職差別について、自分の問題として考えさせる。	

2. 心づくりプロジェクト部の実践

(1) 「気になる子」の理解と支援

クラスの中には、友達と上手にコミュニケーションがとれない、自分の思いが友達にわかってもらえないなど、困り感をもっている子がいる。そんな子供たちが笑顔で友達と仲良く関わられるよう常に願っているものである。そこで、今年度も、子供たちに「あなたの心のアンケート」をとり、日頃から「気になる

子」の心情を教職員間で共通理解するために毎月の生活指導協議会を活用し、一人一人を大切にしていける体制を作った。

(2) 共生福祉学習「車いす学習」

「障害」「高齢」など、様々な「個性」をもつ人たちと「共に生活する」ために自分はどうすればいいかを考えさせる。そのために、単に知識や技能だけではなく、体験を通して実感を伴って学ばせることにより、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践力を培う。そのための一つの方法として「車いす学習」をした。基礎的段階を前期ブロック、発展的段階までを中期ブロック、最終段階までを後期ブロックのねらいと位置づけた。「基礎的段階」とは①車いすに触れる②車いすを使う③車いすの援助をする。「発展的段階」とは④車いすで生活する⑤車いすで生活する人のそばで生活する。「最終段階」とは⑥共に生活するものとして考える。「車いす体験者」に対しては「共に学校で生活する一人」として考え「車いす体験者」が自分で生活できるように支援をする。



(3) 人権に関する学習『人権教室』

友達を信頼し、安心して自分の考えを言えるように、そして、自分らしさが発揮できるように、各ブロックにおいて、毎月人権・同和教育の八つの視点に沿った「人権教室」を朝の時間帯で行い更にその内容を、道徳や学級活動とも関連させ深化統合させるようにした。また、「人権作文・人権標語」にも取り組み子供たちの実態を把握しながら生活の中で生かすようにしている。さらに、各教科等における重点目標を定めて、子供を取り巻く生活環境のすべてにおいて、人権意識を高め相互に尊重し合うようにした。人権教室は下記のように各月の視点を設定し、七山小中学校の「人権・同和教育の視点」を踏まえて全職員で取り組み、その月の担当になった教師が行った。

人 権 教 室 2 0 1 2

視 点	前 期 ブロック	中 期 ブロック	後 期 ブロック
集団連帯	仲間を作るには「聞き方名人になろう」	「手拍子チームワーク」心一つになれるかな	言葉の重みと表現の仕方を考えよう
平 和	「平和」ってどんなこと	幸福度(明るいあいさつみんなをつなぐ)	沖縄戦 (6月22日)
生 命	「ガラスのうさぎ」戦争・平和・生命	「命」の重さ 沖縄慰霊の日	「命」について
真 実	オオカミが来た	風評被害	部落差別について
人 権	ももたろう 違う立場に立って見る	してはいけないことはしない	いじめについて
差 別	これって正しいの？	差別とは… ちがいを認める	竹田の子守唄から考えよう

健康	元気な体と心をつくろう	あなたは今健康ですか？	今生きていることに感謝して
労働	アリとキリギリス	学校は何のためにあるの？	「働くということ」について考えよう

人権教室 2013

視点	前期ブロック	中期ブロック	後期ブロック
集団連帯	「つながりとは」	スタンツの詩～感じる「思い」	連帯とは2つ以上のものがつながっている
平和	「なかよくしよう」	「命」の重さ 沖縄慰霊の日	沖縄戦 (6月22日)
生命	新しい生命	生きています 15歳	「命」について

(4) 中期総合『ハートフルタイム』の位置づけ (中期ブロックの実践)

前期ブロックでは、人権教室や車いす体験など一つ一つの学習を積み上げていき、中期ブロック(5・6・7年)では、総合的な学習の時間との組み合わせにより、「いのち」「車いす学習」を中心において、「人権」と「いのち」の相互関係を大きく取り上げて学習を深めた。ここでは、子供の関心・意欲からテーマを決めさせて、グループで調べ合い、学び合うことで、より自分の課題として考えさせることがねらいとした。

3. 体づくりプロジェクト部の実践

(1) 児童生徒の生活改善

児童生徒の生活や学習に対する意識や状況を調査するために学習生活アンケート(生活習慣、生活の決まり、あいさつ、返事、言葉づかい等)を行っている。調査の実施時期は、5月末、一学期末、二学期末、三学期末の年4回である。調査対象は全学年であるが、1・2年、3・4年、5・6・7年、8・9年の4つのグループに分け考察を行った。

学習生活アンケート比較項目

- ①朝ごはんをきちんと食べていますか。
- ②朝のあいさつはできていますか。
- ③名前を呼ばれたらすぐに「はい」と返事をしていますか。
- ④友達と仲良く生活できていますか。
- ⑤学校の決まりを守って生活できていますか。
- ⑥目上の人に正しい言葉づかいで話をしていますか。
- ⑦友達に対して、傷つくような言葉を使っていませんか。
- ⑧各学年の「学習時間のめやす」を守って家庭学習をしていますか。

(2) いのちの教育の取組

年間を通し、子供の発達段階に応じて、いのちの教育の取組を行っている。取組内容としては、性教育週間や性教育講話等を行っている。また、外部講師を招き、保健や家庭科等の特別授業を実施した。

外部講師による授業

- ・ 歯科教室（全学年）・防煙教室（6・7年）・薬物乱用防止教室（6・9年）
- ・ 朝食作り（7年）・郷土料理教室（8年）・弁当作り（9年）

これ以外にも適宜、外部講師による授業を取り入れ、いのちの教育に対するの取組を行った。

4. 環境づくりプロジェクト部の実践

(1) 人権が尊重される雰囲気づくりのための環境整備

① 教室の環境整備

豊かな人間関係を形成する場として、学級は重要な役割を持つ。そこで、安心して過ごせる場、学べる場となるよう、人権尊重の視点に立った教室環境の整備を行う。そのために、子供の相互理解につながる掲示物、一人一人の帰属感・連帯感を高める掲示物、コミュニケーションを円滑にするための掲示物などを掲示した。また、自尊感情が高まるようなコメントを担当や教科担当が入れるなどした。

② 校内の環境整備

子供に読んでほしい詩や名言、人権ポスター、標語などを定期的に校内に掲示する。玄関前や1階などには、全校生徒に見てほしい掲示物を、その他の場所では、学年に応じた掲示物を掲示し、自他を尊重する心の育成につなげる。今年度は、異学年間の行事や日常の交流によって育まれる他者への肯定的な気持ちを伝え合う場として「ぼかぼかの木」を玄関前に設定している。



5. 各ブロックの実践

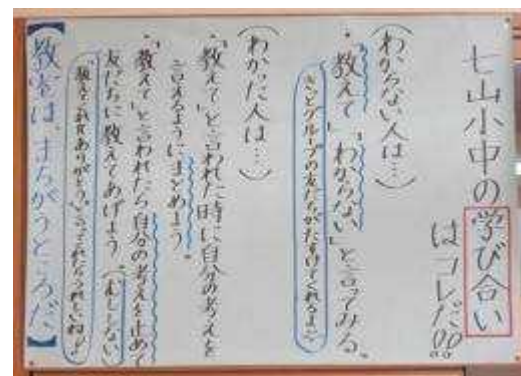
(1) 「学び合って学力を伸ばす」

ペア学習やグループ学習などで、自分の考えを相手に伝える

市松模様 ○・・・男子 ●・・・女子

○	●
●	○

グループの座席の配置（中学年以上）



「学び合い」に関する掲示物

「学び合い」を通して、相手の気持ちを考え、相手に教えることの徹底や、相手が分かるまで繰り返し教えるように指導した。

(2) 人権教育年間指導計画の取組

学校教育活動全体を通して人権尊重の意識を高める教育を推進する観点から、各教科・領域における人権教育の視点を作成した。

(※右の図は、中期ブロックにおける人権教育年間指導計画である。)

七山小中学校の小中一貫教育の特性を活かして、系統性を大切にし、継続的に人権に関する知識理解を高めることができた。

人権教育年間指導計画(中期ブロック)

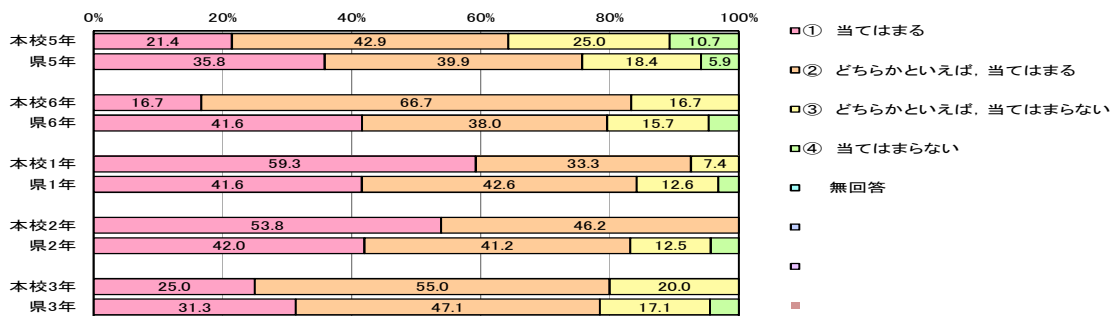
	1学期	2学期	3学期
目標	各教科の授業を通して人権教育の視点を実践し、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。	各教科の授業を通して人権教育の視点を実践し、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。	各教科の授業を通して人権教育の視点を実践し、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。
内容	道徳科の授業を通して、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。	道徳科の授業を通して、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。	道徳科の授業を通して、人権尊重の意識を高め、社会生活を送る中で人権を尊重する態度を身に付ける。
教科・科目	道徳科、国語科、算数科、理科、社会科、総合的な学習の時間	道徳科、国語科、算数科、理科、社会科、総合的な学習の時間	道徳科、国語科、算数科、理科、社会科、総合的な学習の時間
学習活動	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける
評価	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度
学習活動	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける
評価	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度
学習活動	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける	グループ学習、話し合い、発表、発表の場を設ける
評価	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度	学習態度、知識・理解、態度

4. 実践事例の実績、実施による効果

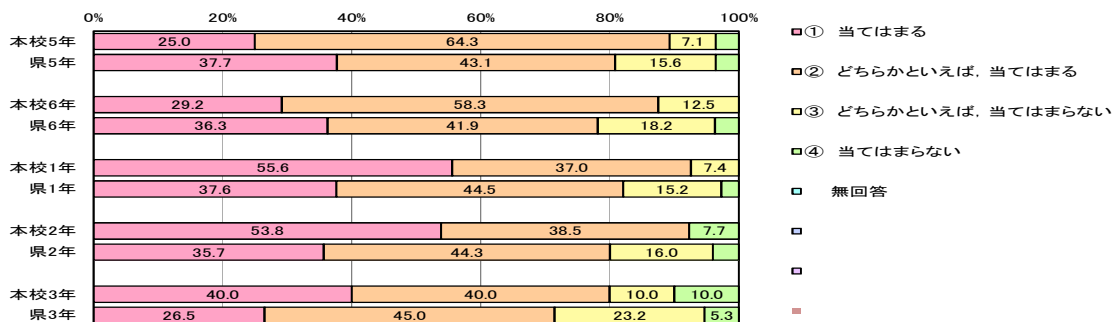
1. 自他を大切にする「学び合い」について

日常の授業の中で、話し合い活動の場や発表の機会があると感じているのか、子供たちの意識調査（全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査）の結果から考察をしてみた。(5年生～中学3年生対象) その結果、概ね県平均を上回り、自分の考えを発表する機会があると答えている。これは、教師がグループ学習や話し合い学習を意図的計画的に取り入れ、子供のつぶやきや意見を大切にしながら一緒に学習を進めようとする姿勢が表れている成果ではないかと思われる。

■(15) ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。



■(16) ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。



2. 「自他の人権を大切にする」について

人間関係を豊かにする集団づくりや人権尊重の意識が高まる活動を取り入れたことで、友達と主体的に関わっていこうとする意欲や温かく友達を思いやる心が育ってきている。また、各ブロックでの縦割り活動や学校行事での取組を通して、自己有用感を高め他者への温かい心配りをする場面も見られてきた。Q-Uテストでは、学級生活満足度群の割合が全国平均よりも同程度から24ポイント上回る学級が5学年あるという結果となっている。縦割り班活動や学校行事の中で教師から認められたり、異学年の友達から感謝の言葉をもらったりすることで自己有用感を持ち自信を持ってのびのびと生活できたのではないかと考えられる。

5. 実践事例についての評価

○ 研究内容全般について

本校では、「学びの共同体」の考え方を取り入れた授業実践を行いながら人間関係力を育む研究を進めてきた。子供たちが信頼関係を築き、温かな学級づくりのためには、個を育てると同時に学級集団を高めていく必要がある。自己有用感を持ち自尊感情を高めることが、自分以外の他者の存在を認め大切にしていくことにつながる。人権教育を通して培われるべき資質・能力を育成し高めていく観点から、今後も実践を積み上げていかなければならない。今後、評価の在り方、学級集団や個人の意識についての分析の在り方などを、人権教育で育てたい力と照らしながら検証していく必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

唐津市立七山小中学校

人権尊重の視点に立った小中一貫教育の学校づくりが、組織的かつ効果的に進められている事例である。

三つの研究の柱・目標を設定し、「学びの共同体」の考えを取り入れた授業実践と人間関係力を育む研究を進めてきている。研究母体が確立されていて、4プロジェクトから具体的な取組が提案され、実践が積み重ねられている。特に「学び合いの方法」や「グループ学習での人権の視点指導系統」に基づく9年間の学び合いは、自他を大切にしようとする意欲や心が育っていることで評価される。各教科・領域における人権教育の視点、人権感覚を育てる授業、人権に関する学習、子供理解と支援、生活改善、環境整備等の内容も参考になる。